



羽田真朗
外科系第1
診療統括部長

のダヴィンチ手術に保険が適用されたため。同病院では前立腺がん、腎臓がん、子宮がんに次いでの導入となった。繊細な動きと立体視を可能にするダヴィンチを使うことで、合併症が少なく回復が早

医療最前線

県立中央病院から
(151)

県立中央病院は4月から、手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いた胃がんの腹腔鏡下手術を始めた。今年に入り、胃がん、食道がん、直腸がんなどに対する12術式

胃がん手術の在院日数

2015年4月 ~2018年3月	件数	術前入院 日数(平均)	術後入院 日数(平均)	総入院期間 (中央値)
開腹胃切除	91	3.9	14.2	15.0
腹腔鏡下胃切除	81	1.9	10.6	11.0
開腹胃全摘	54	3.1	16.9	14.5
腹腔鏡下胃全摘	4	2.3	10.3	14.0

(山梨県立中央病院・医事課)

胃がん手術にダヴィンチ導入 少ない合併症、在院短縮へ

いメリットがあり、同病院は在院日数の短縮を目指している。ダヴィンチには4本のアームがあり、1本は「目」の役割を果たすカメラ、残り3本

は「手」となる鉗子や電気メス。医師は操縦席に座って、患部や手術の様子が立体的に映し出されたモニターを見ながらアームを操作する。同病院は2016年にダヴィンチ手術より緻密な手術が可能と羽田

回復が早く、総入院日数が胃切除で4日、胃全摘で半日短縮している。「ダヴィンチの鉗子は人の手より可動域が広く、腹腔鏡手術と比べて、術後の合併症発症率を半減

インチを導入。これまでにダヴィンチを用いた腹腔鏡下手術は、前立腺がんが約70件、腎臓がんは約25件、子宮頸がん・子宮体がんは約10件に上る。現在、保険適用のダヴィンチ手術は早期がんのみだが、羽田医師は「進行がんにもその複雑な動きができるダヴィンチが必要」とみる。また今後、ダヴィンチ手術の対象を「食道がん、直腸がんにも広げていきたい」としている。

外科系第1診療統括部長で胃食道外科の羽田真朗医師によると、胃がんの全摘・切除手術は従来の開腹手術に加え、患者の負担が少ない腹腔鏡下手術が主流となりつつある。腹腔鏡下手術は開腹手術に比べ、出血量や痛み、合併症が少ないことから術後の